

平成29年度 第1回大和市文化創造拠点運営審議会 会議要旨

1. 日 時 平成29年8月4日（金） 午前10時～午後12時20分
2. 場 所 文化創造拠点シリウス2階 会議室2-2
3. 出席状況 委 員 5名
事 務 局 5名（文化スポーツ部長、図書・学び交流課長、図書・学び交流課係長、ほか2名）
指定管理者7名（やまとみらい統括責任者、やまとみらい代表企業㈱図書館流通センター営業部長、芸術文化ホール館長、図書館館長、生涯学習センター館長、屋内こども広場館長、防災センター所長）
4. 傍 聴 人 なし
5. 次 第
 - 1 開会
 - 2 議題
(1) 指定管理者の評価について
 - 3 その他
 - 4 閉会
6. 会議資料
 - 議題（1）：指定管理者の評価について
(資料1) 平成28年度大和市文化創造拠点評価書（案）
(資料2) 平成28年度大和市文化創造拠点評価書記入要領
(参考1) 大和市文化創造拠点 平成28年度事業報告書
(参考2) シリウスご来館者アンケート調査 報告

<会議要旨>

- 1 開会
- 2 議題
事務局から評価案について説明を行った後、質疑応答を行った。主な内容は次のとおり。

(1) 指定管理者の評価について

【評価項目1. 運営組織に関すること】

委 員 ：職員配置を教えてください。

指定管理：図書館は、フルタイムが35名、パートタイムが16名、計51名である。

指定管理：芸術文化ホールは、舞台管理を委託しているシグマコミュニケーションズが全員フルタイムで8名、事務所スタッフと受付スタッフが合わせて22名、そのうちフルタ

イムは 13 名となっている。

指定管理：生涯学習センターは、フルタイムが 9 名、パートタイムが 6 名の計 15 名である。

指定管理：屋内こども広場は、フルタイムが 4 名、パートタイムが 53 名である。

指定管理：防災センターは、警備員が 10 名（内、夜間警備 3 名）、設備員が 7 名、清掃要員が 26 名の計 43 名である（フルタイム 17 名、パートタイム 26 名）。

委 員：①組織運営に関して、やまとみらい（共同企業体）全体としての連携は問題がなく運営されているか。

②学習センターまつりについて、今後シリウスでどのように定着させていくか、全館として今後どのように取り組んでいくのか。

指定管理：①やまとみらいの運営として、月に 1 回、本社の担当者も含めた J V 会議を行っているほか、毎週金曜日に館長会議も行っており、課題等の検討を行っている。

②学習センターまつりについて、各館における協力体制を全体で検討している。これまで地域の方と培ってきたことを、大切にしていきたいと考えている。

委 員：各施設を貫くようなプログラムと、それが市民とつながっていくような重層的な関わり作りが必要である。

委 員：市の条例に基づいた個人情報等に関する規程の整理については必須である。策定に向けた今後のスケジュールがあれば伺いたい。

指定管理：各社から担当者を選出し、やまとみらいの中で設置した情報管理委員会で検討し、所管課とも調整をしながら進めている。今年の夏じゅうには形を作りたい。

【評価項目 2. 利用者サービスに関すること】

（1）やまと芸術文化ホール

委 員：開館以来の運営について、指定管理者の皆様の努力に敬意を表したい。アンケートにもあったように、胸をはれる施設ができてとても嬉しい、との一言に尽きる。

①文化振興審議会から、地域の文化活動にも目を向け、それらと連携して事業を実施することで、自然体な文化活動を包括的に支援、発展するようにしてほしいとの意見をいただいている。

②コミセンでは、シリウスの催事を承知していないようなので、公共施設であれば隔々まで広報活動が行き届くようにしてはどうか。

③当施設を基軸に、優れた人材や団体活動が育まれるような活動を期待する。

④事務室から外に出て、利用者と顔を合わせ、ぜひ笑顔で対応してほしい。

委 員：質のよい公演がされていると思う。せっかくなので、チケットのリセールを検討してはどうか。

委 員：入場者の予測というのは、当日まで難しいのか。

指定管理：入場者数は、直前に確認する等して、正確な情報の把握に努めている。

①システムによるリセールの仕組みは承知している。公共施設の導入実績はまだないと聞いている。システムの導入には相当な費用が掛かる一方、人力での実施には体制等の構築が難しい面がある。運用は今後の課題である。

委 員：指定管理者ならではの運営方法等を研究していただきたい。

委 員：空席の状況を広報するなど、席を埋める方法を検討していただきたい。空席があれ

ば公演を見たいという方を巻き込むことで、入場者増につながると思う。

委員：当日でも空きがあるなら行ってみようと思う人もいる。

（２）大和市立図書館

委員：事業報告書 19 ページに蔵書数が 6,751 冊とあるのは。

指定管理：指定管理後、11 月～3 月の間の新規購入冊数である。

委員：貸出資料数の目標値 30 万冊の根拠は何か。

指定管理：旧図書館における 1 月あたりの貸出冊数に少し上乘せし、月 6 万冊を想定し、その 5 ヶ月分とした。

委員：1 ユーザーとしても大変素晴らしい図書館だと感じており、サービス面だけでなく、施設・設備面からも新しい時代の図書館像が具現化されていると思う。その上で何点か確認したい。

- ①図書館としてのあり様に関わる情報発信が少ないように感じる。図書館資料の収集方針や図書館の目指す方向性などが公開されておらず、掴みどころのない図書館との印象である。
- ②学生を中心に、多くの人が図書館を自分の勉強部屋のように利用しており、図書館資料を利用している人が少ないようだが、収集方針を含め、どのように考えているか。
- ③電子図書館について、データから電子図書館の利用状況が、全く読み取れない。市民の受け止め方や、今後の拡大のための戦略などを伺いたい。
- ④障がい者サービスや多文化サービスなど、図書館を通常利用するのに困難な人へのサービスが成熟していないように思う。
- ⑤学校への支援や連携も、データから見ると少ないように思う。

事務局：①ホームページでの情報発信については、市、やまとみらいがそれぞれ作成しており、収集方針については、市のホームページで公表している。必要な情報がより検索しやすくなるよう、互いのホームページのリンクなど、系統立てて整理していくことが今後の課題と認識した。指定管理者と協議していきたい。

指定管理：②資料利用者が少ないという点については、滞在型の図書館、市民の居場所づくりという施設のコンセプトに立ち、自学習のための席利用を許容している。また、自学習の利用者が多いため読書などの図書館利用者が座れないという声も届いており、席取りについては巡回を強化し、長時間離席している方には注意等を行っている。自学習のために図書館に来た人をどのように図書館資料の利用に導いていくかが今後の大きな課題である。

- ③電子図書館の利用については、昨年 11 月のオープンから 3 月までの貸出し回数は延べ 310 回、1 カ月平均は約 60 回であり、まだ利用は多くない。今後利用者を増やすため、コンテンツを増やしていく予定である。また、周知も不十分なので力を入れていきたい。
- ④障がい者サービスについては、新図書館へ移転後、障がいのある方の登録自体は増えているが、電子図書館の読み上げ機能など、具体的なサービスの周知が課題である。多文化サービスについては、今後、蔵書数や言語数を増やしていきたい。

⑤学校図書館との連携等については、市内の小中学校を対象に、学校貸出、職場体験や施設見学の受入を実施している。現在、指導室と連携して、そのほか具体的な学校支援について検討している。

委員：4階の広いスペースが生かされておらず、もったいない。高齢者の利用なども考慮し、もう少し活用を検討いただきたいと思う。

指定管理：排せつ支援ロボット等を見るだけではわかりにくいので、展示方法等を検討していきたい。

委員：貸出冊数が目標を下回ったのは、滞在型図書館として館内で読書を楽しむ利用者が多いからという推察だが、欲しい本の蔵書がないから借りないということもあるのではないかと。他市との連携をもっとPRすれば貸出が増えるのではないかと。

指定管理：相互貸借やリクエストによる購入等のサービスを周知するとともに、大和市以外の利用者も増やしていきたい。

委員：今、これまでにない形の図書館が誕生したことで、新たな図書館のミッションが問われている、ということだと思う。

(3) 生涯学習センター

委員：学習センターは、利用者の意見をよく取り入れながら、日増しによくなっていると思うが、貸室の稼働率がこれだけ減っているのは何が問題なのか。

指定管理：貸室が伸び悩んでいる理由は次の3点である。

①旧学習センターは月曜日が休館だったため、月曜日の利用団体がほかの曜日に比べるとまだ少ないことが原因として考えられ、さらなる周知が必要である。

②17時半以降、夜間の時間帯の利用が課題である。働き盛り世代の利用が少ないため、今後は講座の企画を通して来館を増やし、夜間利用を周知していきたい。

③特別室（和室・調理実習室・文化創造室）は用途が限定的なため稼働率が上がっていない。特別室を利用した講座を企画し参加いただくことで使い勝手を見ていただき、利用率を上げていきたい。

委員：学習センターでは講座の企画・運営が活動の大きな部分ではあるが、貸室の稼働率向上も重要である。もっと積極的にアピールを行ってほしい。

委員：学習センターが無料休憩所化しているので、対策を考えた方がよいのではないかと。

委員：サークル活動後の団欒、家族連れのランチなど、楽しい雰囲気での利用がされており、ストレス過多の現代社会において、いい休憩所になっているのではないかと。ぷらっと大和がシリウスの良さにもなっていると思う。

委員：市民の間に文化や学習を通じた縁（円）をどのように作れるか、その装置として施設を使うという一歩進んだポテンシャルをシリウスは持っていると思う。

(4) 屋内こども広場

委員：親子がぷらっと大和で休憩をとりながら、3階と6階を行き来しており、施設全体として親子が滞在するには素晴らしい施設であるという印象である。主な質問は次の2点である。

①育児相談事業は32名の相談があったということだが、市内の関係各課とはどのよ

うに連携しているのか。

②職員体制について、かなりの小規模人数で運営しており、安全管理を考えると、かなり厳しいと思われる。今後スタッフを増員する構想があるのか。

指定管理：①保護者からは、手遊びや読み聞かせをする中で保育士と打ち解けてくると、深刻ではないものの、様々な相談があった。また、保育を利用された母親の様子を見て心配な場合は、すすく子育て課、ほいく課とも連携している。なお、両課と協力して、保育室で子どもの定期的な身体測定なども実施している。

②スタッフについては、一人一人の質の向上を呼び掛け、研修等を強化している。配置人数も当初よりかなり増やし、ちびっこ広場に絵本の提供や手遊びで入ること、安全面を含め、見回りを強化している。今後は、スタッフの人数も増えてきたことから、多目的室の空きを活用して利用者増に対応するとともに、安全面を配慮した運営をしていきたい。

委員：げんきっこ広場は、スタッフの数は増えたが安全管理が行き届いていない。保護者も子供から目を離しており危険である。スタッフの数ではなく質であり、保護者にも預かる場所ではないことを徹底しないと、特に利用の増加が見込まれる夏休みなどは事故の危険がある。

指定管理：プレイリーダーの役目は遊びの提供と安全の管理である。げんきっこ広場では、基本的な安全管理は保護者をお願いしているが、全ての保護者に預かりの場ではないとことをご理解いただくという点は課題である。

委員：利用者数が目標に達しなかったということなので、リピーターを増やすための遊具入れ替えはいかがか。

指定管理：折に触れ、遊具等の入れ替えを行っている。

(5) 共通事項、【評価項目3. 施設の維持管理に関すること】、【評価項目4. 経費に関すること】

委員：総合案内をもっと大きくできないのか。また、大和市の文化の拠点として、市内の文化活動等を総合的に案内できるようなものがあるとよい。

委員：千代田区がやっているような、商店街や文化を図書館で案内する図書館コンシェルジュはないのか。

指定管理：行っていない。

委員：シリウス全体を案内する、デパートの総合案内のようなものがあるとよい。

指定管理：エレベーターの階数表示がないことが気になる。ベビーカーが乗れなかったり、車いすが入れなかったりということで、動線の改善が必要かもしれない。

委員：新しいタイプの複合施設であり、評価書の作り方はどのようにすべきか、貸出冊数や入館者数といった数値的なアウトプット指標だけでよいのか、今後検討していく必要がある。

委員：ほかになれば、いただいた意見を審議会の意見として事務局で集約することによってよいのか。

(一同賛成)

・審議会意見のとりまとめの流れについて、事務局から説明を行った。

3 その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局から説明を行った。

4 閉会

以上